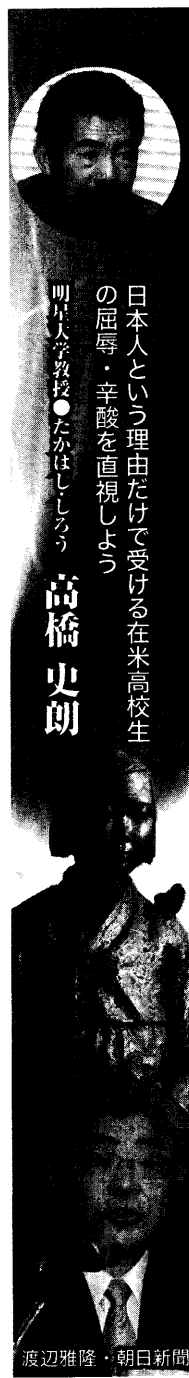


【特集】戦後70年と  
朝日・慰安婦問題

# 「慰安婦」でここまでできた アメリカの日本人差別



日本人という理由だけで受ける在米高校生  
の屈辱・辛酸を直視しよう

明星大学教授・たかはししろう 高橋 史朗

渡辺雅隆・朝日新聞社長

VANKという活動が韓国にある。民間外交使節団と呼ばれ、韓国に関する「誤った」情報を訂正し、日本の歴史歪曲を世界中に知らせるようインターネット上で様々な書き込みや反論をするのが主な活動だ。

民間と謳ってはいるが、韓国政府による資金的援助があるなど実態は韓国による国家を挙げた日本パッシングの担い手で宣伝工作活動ともいえよう。

一昨年韓国では、VANKの

活動を一部の大学の単位として認定する動きまで出てきた。外国語を専攻する学生を「グローバル歴史外交大使」として宣伝工作活動に駆り出す格好となっている。

VANKの活動は侮れない。世界の主要機関や地図製作会社、出版社が地図上で日本海を「日本海・東海」と併記していたのは1999年時点です。ところが、これがVANKの働きかけもあって2012年時点では30%にまで

増加したのだ。昨年2月、米バージニア州下院議会は公立教科書に東海の併記を求める法案を可決。米国の教科書出版会社3社のうち2社が韓国関連記述を大幅に改めた教科書を出した。業界最大のマグローヒル教育社発行の世界史教科書（「伝統と交流——過去に対する世界的展望」）には、次のような「慰安婦」歪曲記述が出現した。

《戦争中の女性の経験は、必ずしも立派なものでもなければ、権利を与

えられた立場にあったものでもなかった。日本軍は、14歳から20歳までの20万もの女性を強制的に採用し、徴用し、高圧的に「売春宿」とか「慰安所」と呼ばれる軍の施設で奉仕させた。軍はその女性を天皇からの贈り物であると言って部隊に提供した。女性たちは、日本の占領地であった朝鮮、台湾、満州その他フィリピンや東南アジアの占領地域から連れてこられた。朝鮮と中国の出身者が大多数を占めていた。

一旦国家の売春サービスに強制されると、「慰安婦」は1日20人から30人の兵士の要求に応じていた。戦

高橋史朗氏 昭和25（1950）年、兵庫県生まれ。早稲田大学大学院修了。臨時教育審議会専門委員、埼玉県教育委員会委員長など歴任。男女共同参画会議議員、親学推進協会会長などを務める。「親が育てば子供は育つ」「脳科学から見た日本の伝統的子育て」「歴史の喪失」「教科書検定」「親学Q&A」など著書多数。

闘地域に配置され、しばしば兵士と同様の危険に遭遇し、多くの女性が戦争の犠牲者になった。日本兵に殺された者もいた。特に逃走しようとしたり、性病にかかったりした場合である。戦争の末期には兵士は、証拠を隠すために多くの女性を虐殺した。慰安所設立を加速させた背後には、南京虐殺があった。南京では中国人女性の大量レイプが起こっていた。この虐殺を避けようとして日本軍はさらに別の戦争の恐怖をもたらした。戦争を生き抜いた慰安婦たちは恥辱の思いを経験し、過去を隠したり、家族から見捨てられる悲劇に直面した。戦後、彼女たちは心安らかな平和な思いをすることはなかった（第4版、傍線は筆者）

「20万人」「軍はその女性を天皇からの贈り物であると言って部隊に提供した」「朝鮮と中国の出身者が大多数」「証拠を隠すために多くの女性を虐殺した」などという明白なウ

ソが明記されているのだ。過去の版と比べると慰安婦の数は「30万人」から「20万人」に、「80%が韓国出身」だった記述は「朝鮮と中国の出身者が大多数」と書き換えられている。秦郁彦氏によれば、慰安婦の約4割は日本人で、朝鮮半島出身者は約2割にすぎない。内容の根幹で杜撰さが目立つのだ。

この教科書では日本の江戸時代の項目で使用された地図では第4版（2008年改訂）は「日本海」と表記されていたのに第5版（2010年改訂）からは「日本海（東海）」と韓国側の呼称も併記された。いずれもVANKの情報宣伝活動の成果なのだろうが看過してよい問題ではない。

### 驚くべき在留邦人の被害の数々

ところで、筆者は12月下旬、ロサンゼルス近郊の公立高校の11年生、A君（16歳・男）と12年生、Bさん

(17歳・女)から現地の歴史教科書や授業についてヒアリングを行った。昨年3月、在米日本人子弟のいじめ事例などについて三時間にわたってヒアリングしたロサンゼルス「母の会」の方が提供してくれたマグローヒル教育社の世界史教科書を使用した授業が一体どんな実態なのか。それを安倍晋三総理や下村博文文科相ら日本政府の中枢にしっかりと伝えて欲しいと要請されていたからである。

二人の高校生の話は衝撃だった。30人中7人が韓国人というクラスでは「南京大虐殺」と慰安婦問題を併せた授業が行われた。30分間にわたって90歳以上と思われる白髪の元日本兵などがしゃべり続け「自分たちは住民たちを殺す前に、女性なら、5、6人の兵士が必ずレイプしてから殺した。戦争中なので、このようなことをしても罪悪感を全く感じなかった」などと証言した動画(教師

はその古いビデオテープを長年使っている)を見せられて、二人は「激しい衝撃を受けた」というのだ。クラスの生徒たちは「オー、神様! なんて酷いことをしたの!

日本兵は野蛮!」と口々に言った。それを聞いて顔を正面に向けていることが出来なくなり、授業が終わるまでずっと俯いたままだった。自分の祖国が酷く言われることは、日本人である自分が責められているようで辛かったからだ。

続けて教師は、「特に韓国の女性は、日本兵に無理矢理『性奴隷』にされた。日本は韓国人女性に特にひどかった。そんなこともあり、だから日本はアジアの中から嫌われているのだ」「南京大虐殺よりも朝鮮人慰安婦に対するレイプのほうが酷かった」と強調。韓国人のクラスメイトからは「親から日本人とは話をするなと言われている」とはやし立てられた。章の学習が終わるまで、そ

これらのクラスメイトと一切目を合わせる事ができなかったという。

教師は「南京大虐殺は、これまでの歴史上類を見ない残虐さであった」と述べた。動画には、レイプした後の女性の写真映像もふくまれていた。ナレーターは、「このような戦争犯罪者の日本兵でまだ生きている人がいる」と解説していた。

教科書では「ザ・レイプ・オブ・南京」という見出しでこう書いている。「日本軍は2カ月にわたり7000人の女性を強姦し、数十万人の非武装兵士と民間人を殺害、南京の住宅の3分の1を焼いた。日本兵の銃剣で40万人の中国人が命を失った」。

そして、南京住民は、「戦争への情熱と人種的優越感に駆り立てられた日本軍」の被害にあったとされ、その象徴が「ザ・レイプ・オブ・南京」だとしている。授業後、クラスメイトが「40万人の大虐殺とはすご

いね」と言い、「慰安婦は天皇からの贈り物」という説明にも「すごいね」と失笑がクラスに広がった。

また、試験では「この時代に、日本軍が中国で残酷なことをした事件は？」という設問があつて「南京大虐殺」という名称を書かせたうえに「虐殺で何人が犠牲になつたか」という問いがあつて「20万人」「30万人」「40万人」（正解は教科書に記述されている「40万人」）の選択肢の中から選ばせる問題が出された。生徒たちは試験問題に出るから教科書記述の内容を暗記する。アメリカでは、「南京大虐殺」は中学校でも学ぶのだそうだ。

### 在米高校生が味わう惨めな思い

高校生によれば、次は原爆の話で「アメリカが広島に落としたりしたものは戦争を止めるために落としたりしたもの。なかなか日本が戦争から引き下がらないから仕方なく落とした。そうし

なければもつと多くの人が死ぬところだった」と説明された。

堪えられない話を我慢していたが、勇気を振り絞つて「アメリカが広島に原爆を投下して、戦闘要員ではない一般の婦女子まで殺したのは大虐殺に当たると思います」と発言すると教師は「一般論として、戦争というの是一般人までも虐殺してもよい（仕方ない）」と弁明したそう

だ。さらに、「広島後の長崎の原爆は、本当の目的は日本人を殺すためではなく、ライバル国のソ連に俺たちのほうが強い。この原爆は、（二度目を落とすことで）我々はもつと（核爆弾を）持っているから、俺たちを怒らせるなよ」というメッセージを送るために落としたりしたもの。だから、日本人たちはアメリカのメッセージの配達人にすぎなかつたわけだ」と説明したという。

授業は「日本人はとても悪い奴ら

だ」という話から始まつて第二次世界大戦のころの悪い国は、日本、ドイツ、ソ連だが、中でも日本は特に悪かつた。なぜなら、第二次世界大戦後、ドイツは非を認めて世界に謝罪し続けたが、日本は知らんぷりをした。ドイツの歴史教科書には自らの非を認める記述があるが、日本の教科書には『第二次世界大戦ではこういうことがあつて、いろいろあつた後日本は負けました。終わり。はい。次』としか書かれていない」と説明されるのだそうだ。教師から「日本はナチス・ドイツよりもひどい」と言われた時には、さすがに悲しい気持ちになつたという。

A君は米国史、Bさんは世界史を履修（歴史の授業は必須科目）しているが、Bさんは「2時間続いたこの授業の9割は下を向いたまま聞いていた」「クラスの皆に自分はそのういう国の血を引く日本人」という目で見られている気がした」「悲し

い気持ちになつたのと、日本という国が恥ずかしいという気持ちが入り混じつた」という。

母親が「日本について沢山の歴史が間違つて伝えられているよね。例えば南京大虐殺はなかつたのに、30万人の人を虐殺したと言われているし：」と言つた途端、A君は「えっ？ そんなの教科書のどこにも書いてない！」と話を遮つた。日本国内で歴史教科書の記述を見直す動きが高まつていることを説明した母親にも「遅い！ そんなの遅すぎるよ！ 日本は何でもつと早くからそれをやっていないの？」

「遅いけど：何もしないと日本が悪く言われる。もつと英語できちんと日本のことを世界に発信してほしい！ どれだけ惨めな思いをしたか：授業中、誰とも目を合わせる事が出来なかつた。先生が日本のことを悪く言うたびに、辛くて下を向いているしかなかつた：」と語つ

た。

グレンデール市に慰安婦碑・像ができた時、韓国人の友達から感想を求められた時は、「碑文に書かれた内容に反論するために必要な英文資料が手元になく黙っているほかになつた」。碑と像の見学のためにフィールド・トリップ（遠足）に連れて行かれた日本人生徒もいたという。

反論できる正しい情報が欲しい

A君は母親に悔しそうに訴えた。

「お母さんが説明してくれても、自分たちが読めて、『日本はアメリカの歴史教科書に書かれているような悪い国ではなかつた』と反論できる資料など一つもないじゃないか。だから歴史の授業中に日本が悪く言われても黙っているしかなかつたんだ。悪い国でなかつたのなら、日本はもつと英語で世界の人に『正しい日本』と知ってもらわないと、このままずっと『日本＝悪い国』と思わ

れたままで。そういうことを日本にいる日本人は知っているのかな？

とにかく対応が遅い！ 日本のやっていることは遅すぎる！ もう世界は『日本がナチス・ドイツよりも悪い国』だと思つているじゃないか！

母親が「(教科書にある)慰安婦が天皇からの贈り物」というくだりについて「この一文は特に酷い。そんなことあり得ないよね？」と言つと、「その文をクラスで読んだんだよ。どれだけ屈辱的な気持ちになつたか、想像つくでしょ？」と答え、さらに次のように続けた。

「不満ばかり言つても始まらない。文句があるなら、それをただす行動に出ないとダメだ。もし歴史の教科書が変わってくれるならば、今小生の知り合いの子たちが高校生になる頃には、こんな嫌な思いをしなくてもよくなるかもしれない。時間がかかると思うけど、日本には頑張っ

てもらいたいよ。政治家は国土と国民を守るのが仕事だと聞いていたけれど、教科書の記述をしっかりとさせることも日本国民を守る仕事だよね？ アメリカで生まれてアメリカで暮らしていたって、私たちは日本人だもの。

まずはもつと英語で発信しないとイケない。日本国内だけで騒いでいたって何も変わらないから。やっとここに来て、ようやく英語でも発信するようになったのは、遅いけれどやらないよりはいい。それにしても、この教科書の内容が今まで日本では知られていなかったってこと、遅すぎるのでは？ 韓国や中国は毎年日本の教科書の内容に文句を言っているのに、どうして日本は他国の教科書について調べないのだろう？

反日教育がしっかりとされるから、純粹に日本が嫌いになってしまふんだよ…戦争を経験していない私たちの世代が、戦時中の出来事で未

だに嫌な思いをさせられるのはおかしいと思う」

母親によれば、日本人の生徒たちのもとに韓国グループがやってきて、「竹島は韓国の物だ！」と叫んで走り去ることが数回あって嘩然とさせられたのだそう。咄嗟にどう返してよいのかも見当がつかず、不快感だけが残ったという。多くの高校生は授業内容などを親には話さない。

「在米日本人高校生が、歴史の捏造の被害にあっていることを是非知っていたいただきたい。日本国として日本の名誉を取り戻す努力をし、結果を出してほしい。そう安倍総理、下村文部科学大臣にも伝えてほしい」。そう語っていた。

### 全米に広がり見せるいじめの実態

海外在留日本人に対するいじめは下は6、7歳児から高校生に至るまで幅広い広がりをみせている。私が

カリフォルニア州、ニュージャージー州で伺った事例だけでも10件以上を数える。「都市伝説にすぎない」などとは言えない実態があることは明らかである。現在在籍している子供に被害が及ぶことを恐れて名乗り出ることが出来ない当事者たちの心は察するに余りある。

具体的事例の一部を紹介しよう。

①歴史の授業で第二次世界大戦を習った頃、学校で中国系の生徒数名からの執拗ないじめにあった。バインダーに汚い言葉を落書きされたり、寄ってたかって言葉で日本人であることを責められたりした。

②2〜3回口頭でいろいろヘイトスピーチ (Hate Jap.) などがあったが、とうとう4回目には一方的に殴りかかってきた。相手は「次は殺す…」とまで言った。学校長が間に入って両者を呼んで話し合いがもたれたが、数日間の停学処分だけで謝罪の言葉はなかった。

③韓国人の男の子が、子供の顔に唾を吐きかけてきた。子供が驚いて逃げると、面白がって追いかけてきて、何度も唾を吐きかけた。嫌がらせが酷過ぎると思いい、学校の先生（中国系か韓国系）に相談したが、「学校外の出来事だから取り上げられない」と断られた。

### 今も慰安婦めぐると不当展示相次ぐ

12月にカナダ在住の日本人女性とも会い、カナダの国立人権博物館が公開した慰安婦展示の内容や中国系団体との関連などについて貴重な情報を入手する機会にも恵まれた。まず、この慰安婦展示の内容の一部を紹介したい。

（大日本帝国）第二次世界大戦時から戦時中にかけて、大日本帝国軍は推定5万から20万人もの女性や少女に性奴隷になることを強要した。その中には11歳の若さの少女もいた。軍はこの囚われた女性を「慰安婦」

と称し、本当の目的と迫害を隠した。慰安婦は日本兵に性的なサービスを提供するため、彼女らの文化や言語から断絶され、戦場の最前線で定期的に犯され、暴力を受けていた。

（南京大虐殺）日本による南京侵略の最中、日本兵による絶え間のないレイプが行われ、散在する売春所が不十分であることが明らかになった。そこで軍は、大規模でより公的・性格の強い慰安所制度を作った。

（罪科）日本軍は数千の女性と少女を性奴隷にするため強制連行した。

（教科書による否定）長い間、国家主義者は日本の戦時記録をゆがめ、女性を性奴隷に追い込んだ事実を否定した。この2005年の画像では、歴史教科書における慰安婦制度についての言及が不十分であると反検閲組織の代表である俵義文が指摘している。

（最初の写真）この写真が発見され

た1962年、ジャーナリストの千田夏光は慰安婦制度に関する調査と執筆における第一人者となった。

（国際的な否定）証拠不十分な日本の慰安婦制度についての主張を受けて、日本の指導者は2007年、ワシントン・ポストに意見広告を出した。その広告には、世界に向けて日本が決して女性を性奴隷にしていなかったことを証明する恣意的な5つの歴史的主張がなされていた。

ここで触れられた意見広告とは、櫻井よしこ、すぎやまこういち、西村幸祐、花岡信昭、屋山太郎の5氏らが参加した「歴史事実委員会」が出した「慰安婦強制連行の証拠はない」と主張した意見広告で、国会議員44人、有識者13人が賛同者として名を連ねている。

この意見広告は歴史的事実に基づいたまっとうな主張である。これを「恣意的」と一方的に断定する展示

内容こそ客観性に欠けている。「従軍慰安婦」という造語を広めた作家の千田夏光氏を高く評価し、子どもと教科書全国ネット21事務局長の徳義文氏の指摘を大きく取り上げている。バランスを欠いたものと言わざるを得ず、「南京大虐殺」「性奴隷」などの記述も極めて偏向している。

この展示には、カナダで日本軍「性奴隷」キャンペーンを熱心に推進している中国系の「トロント・アルファ (Toronto Alpha)」という団体が深く関与していた。

この団体は『アイリス・チャンナー・レイプ・オブ・南京』の教師用研究ガイドなどの本や教材を教師に提供している団体で、さらに、7か国語でドキュメンタリードラマ映画『アイリス・チャンナー・レイプ・オブ・南京』のDVD (28章で構成) を作成、クラスで簡単に利用できる教育ツールとして提供したり、「慰安婦」の本などを多数出版して

いる。

また中国系団体「世界抗日戦争史実維護連合会 (抗日連合会)」も有名だ。米加の教師を中国に招待する研修旅行を実施したり「南京大虐殺」や「性奴隷の強制連行」などの反日宣伝に力を入れている。昨年8月27日付ワシントン・ポストに別刷り新聞が折り込まれ、その1面に元慰安婦の大きな写真とともに「残虐行為への謝罪を」と訴える記事が掲載されたことがあった。これは中国共産党が年間数百万ドルの代金を払って、折り込ませていることが明らかになっている。

### これは情報戦だという認識を

しかし、こうした中国系団体の動きを踏まえて米政府の各省庁作業班 (IWG) が日本の戦争犯罪について調査し、2007年4月に米議会向けに報告書を提出したが、その序文では「日本の戦争犯罪に関する資

料を見つけることができなかった」と結論づけられた。中国系団体の言説は明らかに日本を貶めるための情報プロパガンダにすぎない。

昭和15年、当時の若杉要ニューヨーク総領事が松岡外相に「米国内の反日運動」について報告したことがあった。若杉氏はそのさい「日米分断策動」に乗らないようにと訴えたが、結果的には日米は開戦する事態となった。

今回の渡米で見聞きした高校生の辛酸は深刻である。彼らのいう正しい情報発信は不可欠である。「情報戦の敗北」は、今日もなお続いており戦後70年を迎えた今、歴史情報戦は正念場を迎えているといつて良い。中韓による日米分断策動に毅然と対応する覚悟を持ち、官民一体となった新たな国際広報組織の構築が急務である。まず米加豪の日系人と国内の連携を深めるネットワーク作りから始めたい。